

T

T

A

K

H24年2月  
T・TAK発行

退院後も

つなぎます

あなたの

ところとからだ

## 岩手県立高田病院支援活動日記（その3）

I H I 播磨病院 整形外科 西川 梅雄

某2日目（水）今日もリハ室でミーティング。待合室で体操。その後患者さんの前で各科外来開始の挨拶（写真①）をする。

今日は応援の整形外科医師 Y 先生（以前この高田病院に4年ぐらいいいたカリスマ？先生で、長年岩手県立中央病院で勤務。今は盛岡近くの某温泉病院に勤務）もいる。整形外科医合計3名である。私は10時頃から大澤先生の指示で訪問リハと往診に行く。理学療法士（以下 PT）の K さんと運転手さんとで出かけた。



写真① 本日の外来担当スタッフの自己紹介風景。小児科の外来前で。

1 人目は道路沿いにお店（たばこやお菓子などいろいろ売っている）を出しているお家。奥の間に80歳ぐらいの女性が寝ていて両膝と右肩の関節内注射をした。看護師さんがいないので、当然のことながら自分で注射器に薬液を吸ったり、患部の消毒など久しぶりにやった。

2 人目は細い道を入ったところの旧家で、入口の納屋のようなところにいる犬がよく吠える。私たちが帰るまで1時間近くずっと吠えていた。奥の部屋でリハをしている間も吠えていた。筋金入りだ。しかし狸や鹿が家の近くの畑をあらしに来た時には吠えないという・・・（なんじゃそら）。患者さんは80歳代の女性で右片麻痺。言語療法士（以下 ST）が既に来訪し発声訓練をしていた。さらに PT と ST が2人で30分以上関節可動域訓練、筋力訓練などを行った。

3 人目は元オートキャンプ場に建てられた仮設住宅にいる、やはり80歳代の女性（写真②）。1戸あたり2台分の駐車スペースとコテージ風の仮設住宅。この人は家の中はなんとか伝い歩きができるようだ。またよくしゃべるし面白い。東北弁でほとんど何を言うてはるのか分からんけど面白いということは伝わってくる。「息子はすす屋をやっている・・・。」と言うので、煙突掃除か硯の炭か備長炭でも作っているのかなどと思っていたら、「すし（寿司）屋」だった。PT の K さんも患者さんの話は半分ぐらしか分からなかったと言う。K さんは盛岡の出身で陸前高田とはまた言葉がかなり違うらしい。機関銃のように早口で

喋りっぱなしで時間長引く。しかし面白い。それだけではない。私の関西弁がすぐ見抜かれて、「どちらから来られましたか？」と聞かれ、兵庫県からですと言うと、「それはそれは遠方から御苦労さんです。」と逆に私のことを大変気遣ってくれる。歩行も不自由なのに、帰りには玄関の外まで出てきて見送ってくれた。ありがたいことである。



写真② 訪問リハビリテーション。よくしゃべる面白いおばあちゃんでした。

12時過ぎ病院に帰ると島貫先生が食事後また行きましようとして待っていてくれた。お昼の弁当をささっと食べて12時半ごろ出発。今日は高台にある仮設住宅。斎場のそばにある。なんと斎場の待合室も一時避難所になっていたとか・・・。

岩手県医師会の救護所、第1中学校、その校庭は全て仮設住宅(写真③)。等を見て回った。最後に仮設歯科診療所と文房具屋さんのあるところへ。ここで島貫先生が「ここで何か買ってあげたら復興の役に立つんだけどなー」みたいなことを言われた(ような)ので、私は復興支援DVD、絵葉書、希望の1本松の写真入りファイルを購入した。総合スポーツ施設(ドーム)も見て13時半帰院。

午後の患者さんは比較的少なく、外来看護師さんたちや大澤先生といろいろ話す。大澤先生は、気概のある人で、地震直後の3月20日頃花巻空港から宮古病院へ支援に行き数日医療支援していた。さらに勤務していた大阪のO病院を休職して7月頃から常勤で高田病院に来ている。12月末までいるそうだ。



写真③ 仮設集合住宅。津波の被害が無かった学校の校庭や山の上の空き地などに建っている。



写真④ 体操用グッズ。右の2本の布製の棒(中に玄米が入っている)を握る。左は持ち方と体操の説明書。外来看護師Sさんから頂いた。

外来看護師Sさんに「ぼけ防止体操」を教えてもらった。玄米を詰めた棒状の布袋1個300グラムぐらいの握り棒(写真④)を両手に持って体操するのだが、これが結構しんどい。そんな感じで外来2日目も無事終了した。(次回最終回に続く)

TTAK新聞のバックナンバーは

播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/>からご覧になれます。